

平成二十九年六月十六日受領  
答弁第三七〇号

内閣衆質一九三第三七〇号

平成二十九年六月十六日

内閣総理大臣 安倍 晋三

衆議院議長 大島 理 森殿

衆議院議員逢坂誠二君提出国家戦略特別区域を活用した獣医学部の新設に関する質問に対し、別紙答弁書を送付する。

衆議院議員逢坂誠二君提出国家戦略特別区域を活用した獣医学部の新設に関する質問に対する答弁書  
一について

お尋ねについては、山本内閣府特命担当大臣（地方創生）による平成二十九年五月十五日参議院行政監視委員会における「今後特段の問題が生じなければ、更なる規制改革として二校目、三校目を認めていくことも検討に値すると考えているところであります。」との答弁のとおりである。

二及び三について

お尋ねについては、山本内閣府特命担当大臣（地方創生）による平成二十九年五月十五日参議院行政監視委員会における「獣医学部の新設も長年実現できなかった岩盤規制でございまして、これを突破するという意味で、全体の獣医師の需給やあるいは獣医師会等からの慎重な議論も踏まえて、最終的には私の判断で、昨年十一月の特区諮問会議で広域的に獣医学部がない地域に限ることといたしましたし、さらに、今年一月の一枚に限る制度改正となったわけであります。」との答弁のとおりである。

四及び五について

お尋ねについては、山本内閣府特命担当大臣（地方創生）による、平成二十九年四月十二日衆議院地方

創生に関する特別委員会における「獣医師等の需給の関係ではありますが、産業動物獣医師は、地域偏在により現に確保が困難な地域がある、また、近年、ライフサイエンスなどの分野で具体的な需要が高まっている、このことから、地域を限って新設を認めることを基本的な方針といたしました。」との答弁、同年六月一日参議院内閣委員会における「昨年十一月九日、特区諮問会議における農林水産大臣の御発言のとおり、産業動物獣医師が確保が困難な地域があると承知しております。こうした偏在の問題に対しては、所管省庁においてはもちろん様々な努力をされているものと思います。学部卒業生の進路を特定化することは困難であることは事実でありますけれども、他方で、卒業生が不足している職域、産業動物医などですね、や地域に誘導させる努力や工夫をする余地は十分にあると考えております。」との答弁並びに同月八日の参議院内閣委員会における「例えばペットの診療についても価格が高止まりしている、（中略）本来ならばそういう価格が高止まりすれば当然新規参入者が出てきてどんどん価格が下がっていくんですよ。・・・あるところに来たらそれ以上下げると消費者も生産者も困るところが出てきて均衡に達するわけで、それを決めるのが私が言っている神の見えざる手の市場メカニズムであります。・・・ある程度そういう自由価格で決まるところについてはそういうふうにした方がペットを持っている人は喜ぶと

思いますよ。そういうところが高いから、ほかの産業動物医とか公務員獣医師に行く人も少なくなるわけです。」及び「したがって、こういう場合には、国家試験というのがあるわけですから一定の資格はもう確保されるわけだから、あとは市場メカニズムに任せる自由診療でありますから、一定程度市場原理に委ねることが望ましい、そしてそのことによつてあるいは新しい分野にも人材を供給できる」との各答弁のとおりである。

## 六について

お尋ねについては、山本内閣府特命担当大臣（地方創生）による平成二十九年六月一日参議院内閣委員会における「昨年十一月の諮問会議取りまとめにもあるとおり、家畜、食料等を通じた人獣共通感染症の発生が国際的に拡大する中、先端ライフサイエンス研究や地域における感染症対策の強化など、獣医師が新たに対応すべき分野に係るニーズが一層顕著になっているわけであり、具体的には、近年の創薬プロセスでは、基礎研究から人を対象とした臨床研究の研究、いわゆるトランスレーショナル研究で、実験動物を用いた臨床研究など獣医師の知見を活用した研究が重視されてきております。また、家畜等の越境国際感染症の防疫対応は、都道府県の畜産部局と家畜保健衛生所における獣医師等が主体となって行

うことは承知しておりますが、特に緊急時、感染症が全国的に拡大する前に地域で封じ込めるためには、国際対応、危機管理対応が可能な獣医師に加え、防疫対応を支援する拠点たる獣医学部における人材の重要性も高まっております。このように、具体的な獣医師の職域が多様化する一方で、新規獣医師の供給は毎年千人前後で固定しております。このため、新規獣医師がライフサイエンス分野や水際対策の強化などの新たな分野の需要に十分対応できていないことが懸念されたところであります。このことから、ライフサイエンスなどの獣医師が新たに対応すべき分野における具体的な需要が明らかになったと言えると考えております。」との答弁のとおりである。